本願文　第６願　2024/06/18gotonote
願名　　天眼智通の願
願文　　設我得仏、国中人天、不得天眼　下至不見百千億那由多諸仏国者、不取正覚
梵本　　（※７）もしも、世尊よ、かのわたくしの仏国土に生まれるであろう生ける者たちが、すべて、少なくとも十万・百万・千万の世界を見るだけの、天眼を得る者とならないようであるならば、その間は、わたくしは無上なる正等覚をさとりません。
現代語訳　もし、わたしが仏になれるとしても、わたしの国に生れた人たちが、すべての物事の事実を見通す力を持たないで、数限りないさまざまな仏がたの国々を見通すことができないようなら、わたしは誓ってさとりを開きません。
成就文　天眼通達，無量無限（真聖 P54）
＜語注＞
「天眼」　六神通の第二。あらゆる世界のことを見とおす通力をいう。われわれの肉眼による感覚的世界を超えているから、天眼と名づけるのである。（松原 P174）
＜視点＞
・「天眼通の願」は、私の知らない世界の悲惨な現実を見る力です。（尾畑 P41）
・天眼とは単に天人の眼ということではなく、禅定を修することにより通達された清浄なる眼で、この不可思議の通力をもって自在に六道の生死に迷える衆生の苦楽のすがたや、十方世界の種々の形式を見とおす智慧のはたらきであります。（松原 P174）
・「今仏慈愍、顕示大道、耳目開明、長得度脱。」（真聖 P63）と、こうございます。その「耳目開明」ということにつきるわけでございます。天眼、天耳の智通を得るということは耳目が開明する。（宮城大経 21P43）
・「肉限清徹、靡不分了。天眼通達、無量無限。法眼観察、究竟諸道。慧眼見真、能度彼岸。仏眼具足、覚了法性。」（真聖 P54）
・「汝是凡夫、心想羸劣。未得天眼。不能遠観。」（真聖 P95）
・「天耳」「至成仏道、耳根清徹」（真聖 P35　道場荘厳 F）
・「耳目開明、長得度脱」「度脱を得つ」と。つまり救われるということでしょう。その救われるということを安田先生はコンプレックスを離れることだとおっしゃっていますね。信仰によって助かるということは、何か絶対的なもの、そういうものが生じてくる、そういうことじゃない。コンプレックスから解放されることなんだと。そのコンプレックスというのはつまり閉ざされた自己の意識。ですから「耳目開明」に先だってわれわれの現実が「身愚神闇　心塞意閉」という、つまり閉鎖性ですね。閉じられてある。心塞意閉というのがコンプレックスですね。そういう閉じられた自己の意識において周りの者との間に優越感、劣等感、一喜一憂する。優越感、劣等感も、ともに他に支配されたあり方でしょう。優越感、劣等感も同じ自己を失ったありかたでございます。（宮城大経 21P45）